

北播支部

北播支部「まちの保健室」は、6か所の拠点があります。道の駅みき（三木市）、白雲谷温泉ゆぴか（小野市）、やしろショッピングセンター Bio（加東市）、アステア加西（加西市）、西脇病院クローバーの会（西脇市）、なごみの里山都（多可郡多可町）と、北播全地域を網羅しています。

コロナ禍に於いて今年度も、感染者数が減ってきたと思えば、また第7波8波と押し寄せる感染拡大により、拠点活動再開のタイミングが取れない状況が続きました。このような中で、3年ぶりに2か所で出前隊活動を行うことが出来ました。

はりちゅうの日

兵庫県播磨中央公園に於いて、3年ぶりとなる令和4年11月20日に“はりちゅうの日”のイベントが開催され、健康チェック、健康相談を実施しました。

北播支部「まちの保健室」委員を含む8名のボランティアが、地域の方々と触れ合い、健康について語り合うことが出来ました。野外イベントで換気は充分でしたが、まだまだコロナ感染への予防対策を続ける必要がありましたので、ボランティアはマスクとフェイスシールドを使用し、物品は使用毎に消毒しました。ブースに来ていただいた方にもマスク着用と手指消毒を協力していただいた上で測定し、健康相談時には向き合わないなどの工夫をしました。

「まちの保健室」に75名の方が来られました。拠点では比較的高齢者の方が多いのですが、子供連れのご家族など若い年齢層の方も多く、育児相談や産後の栄養相談などもありました。様々な経験を持つ看護職がボランティアとして集まり、様々な相談に対応する中で、施設内の役割では味わうことが出来ない“看護のやりがい”を得ることが出来ました。



西脇いきいきふれ愛まつり

西脇市市民交流施設オリナスホールで、令和4年11月26日に“西脇いきいきふれ愛まつり”が開催されました。

新型コロナウイルス感染者が少しずつ増加し、第8波到来が懸念される中、血圧測定などの来場者の方と接触するような各種測定は行わず、健康相談や健康手帳を含む資料の配布、防災グッズの展示と説明といった内容で活動し16名の方が来られました。特に、防災グッズに興味を持たれる方が多く、ボランティアの説明も力が入りました。中には高齢の方が、食事や運動などの日々の生活のことから、入院中のエピソードも踏まえ多くのことを語られ「話を聞いてくれてありがとう。がんばってリハビリします」と、笑顔で帰られる場面がありました。ボランティア自身も、「出前隊として、地域の方々と直接コミュニケーションを取りながら活動を再開できたことをうれしく思う」と、笑顔いっぱいでした。

コロナ禍で交流の機会が減る中、「まちの保健室」活動の必要性や重要性を改めて感じ、地域住民のライフサポーターとしての活動を増やしていきたいと思いました。



北播支部まちの保健室講演会

日本終末期ケア協会 代表理事 訪問看護ステーションこころんく代表 アステッキホールディングス株式会社取締役 COO 看護師/認定ブランドマネージャー 岩谷 真意 氏を迎えて、『はじめて学ぶ「パーパスマネジメント」～キーワードは“可能性を処方する”～』をテーマに、北播磨総合医療センター会場とWebで、令和5年2月11日に講演会を開催しました。

パーパスとは存在価値であり、自分を知り固定観念にとらわれず認知バイアスとうまく付き合いながら、多様な価値観に気づき受け入れることが大切であることを学びました。

講演後のディスカッションでは、自分が大切にしていることや課題を語り、講師からアドバイスをいただきました。“看護師が幸せな社会を”という締めくくりの言葉が、参加者44名全員の心に響きました。

